

講義科目名称： 家庭

授業コード：

英文科目名称： Home Economics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
古田 豊子			
月4			
添付ファイル			

科目の概要	家庭科における、衣食住の生活、地域社会との関わり、食育、消費者教育に加え、現代社会の課題である持続可能な社会の構築等、様々な課題を学びの対象とする。家庭科は、このような幅広い内容を学び、理解したことを日常生活に生かす力を養うことを狙いとしている。
授業の内容	<p>1 オリエンテーション 授業の進め方、成績評価について知る。</p> <p>2 学習指導要領「家庭」について理解する。 学習指導要領「家庭」の目標を理解し、家庭科学習の内容と対比させる。 持続可能な社会の実現とはどういうことか、理解する。</p> <p>3 家庭生活について考える。－生活を見直そう ①－ 衣食住の課題について調べ、持続可能な社会の実現という視点で考える。 季節の変化に合わせた 生活スタイルについて考える。</p> <p>4 家庭生活について考える。－生活を見直そう ②－ ライフステージとコミュニティの持続可能性について考える。 小学生の生活との関連を知る。</p> <p>5 食生活について考察する。① エコクッキングについて知る。 品質表示を確かめる習慣をつけ、食の安全について理解する。</p> <p>6 食生活について考察する。② 学校給食と地産地消について知る。 地産地消とエネルギーの関係を理解する。</p> <p>7 家庭生活に生かす製作物の作製 ランチョンマットを作成する。 ミシンを使って製作できるようになる。</p> <p>8 小テスト 前半のまとめと整理をする。</p> <p>9 消費生活について考える① 持続可能な消費生活とはどのようなものかを知る。</p> <p>10 消費生活について考える② 家庭科における「消費者教育」の指導について構築し、指導案を作成する。</p> <p>11 日本の文化と伝統について知る① 教科書の中から、日本の伝統的な行事や暮らし方、食文化等について見つけ、次世代へつなぐことの意義を考える。</p> <p>12 日本の文化と伝統について知る② 伝統食や郷土料理について知る。 地域の風土や暮らしに合った食べ物を知り、いわれや歴史を知る。</p> <p>13 暮らしの中に生きている「昔からの 生活の知恵」を知る 現代の暮らしの中に生きている「昔からの 生活の知恵」を知る。 昔の人の知恵が、持続可能な社会の実現と深く関わっていることを知る。</p> <p>14 家庭科学習と日常生活との関わりをまとめる。 家庭科で学ぶ内容から、持続可能な社会の実現に向けて取り組むことをまとめる。 まとめたことをグループ内で発表する。</p> <p>15 まとめと総括 まとめたことを 全体に発表する。</p>
学習到達目標	<p>1. 学習指導要領をもとにして、家庭の意義、あり方などについて理解する。</p> <p>2. 衣食住の関連を理解し、実践する力をつける。</p>
授業の方法	<p>1. 基本的な学びについては、講義形式で行う。</p> <p>2. 実習や体験を取り入れ、課題に応じてグループミーティングを行う。</p> <p>3. 現代社会の課題である持続可能な社会の実現について理解するとともに、小学生への指導について具体的に考える。</p>
成績評価の方法	<p>1. テスト 60%</p> <p>2. レポート・製作作品等 提出物 30%</p> <p>3. 授業への参加度 10%</p>

教科書・テキスト	1. 「暮らしを見つめて、そこから始める 持続可能な社会」 開隆堂出版 古田豊子編著 2. 小学校 家庭科 教科書 開隆堂出版
参考書	授業中に紹介する。
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	家庭科は日常の生活全般を研究対象とする。したがって、日々の暮らしの中に課題を見つける力が必要になる。そこで、毎日の生活の中から、季節の変化や、暮らしの工夫、日本の伝統的な食や暮らしの工夫等に気づき、それらを理解する感性を養う。 また、授業で学んだことを実践する意欲を持ち、それらを記録しまとめる。
履修上の留意事項	真摯に学び、工夫する姿勢で履修すること。
オフィスアワー	月曜日 12：30～13：00
担当教員への連絡方法	研究室 4号館 601室
その他	